



認定特定非営利活動法人

青少年の自立を支える会 通信

冬
令和5年

会報 第77号

2023年1月

目次

巻頭 これまでの「星の家」これからの「星の家」
報告 第23回星の家まつりと星の家25周年の集い
報告 第13回子ども虐待をなくそう！県民のつどい
事務局より 第22回青少年の自立を支える会コンサート
寄付・会費納入者 編集後記



月の家



星の家

これまでの「星の家」 これからの「星の家」

鈴木 友之（理事・非常勤スタッフ）

自立援助ホーム「星の家」が開設されて25年が経ちました。昨年、星理事長・美帆さんの夫婦体制から、石田ホーム長を中心としたスタッフ体制（交代制）に変わりました。新しいステージを迎えた「星の家」のこれからについて、これまでの経過に加えて、スタッフ会議や運営会議での議論をご紹介します。

開設された平成9年当時、県内の養護施設児の状況は、高校進学率が50%強で、中卒で住み込み就職をする子ども達が多くいました。そんな中、住み込み就職に失敗して行き場がなくなった子ども達への支援として、癒しの場・生活の場・自立に向かう場として、自立援助ホーム「星の家」が開設されました。さらに、高校進学後、中退して施設にいらなくなった子ども達も、利用するようになりました。

その後、入居児童が変化して、平成20年代半ばからは、施設経験がない児童の入所が目立って増えてきました。義務教育時代は、学校や地域によって支えられ、事例化に至らなかった子ども達が、家庭生活が困難になり、「星の家」にやってきました。また、施設経験者の入居が減った要因の一つに、児童養護施設等の児童支援のメニューが増加し、高校卒業までの養育やアフターケアが格段に充実したことが挙げられます。その頃から、施設経験の有無に関わらず、入居児童の大半は被虐待児で、愛着障害も強く、以前の入居者は、警察や司法機関との関

わりが強かったのに対して、この頃から、精神的ケアが必要な子ども達が多くなり、医療との連携が必須になりました。

自立援助ホームに関わる法律・制度も改正され、利用年齢が、18歳までだったのが20歳に、条件に応じて22歳の年度末まで、利用できるようになりました。また、入居のルールとして、「仕事をする」「利用料を払う」「お金を貯めて自立する」という3本柱がありますが、大学や専門学校に通学でき、その費用も援助されるような制度も加わってきました。

また、就労し、給料で使用料が払えるまで、携帯の所持ができないというルールがありましたが、今は、スマホなしの生活が考えられない子がほとんどです。

現在、県内には、6施設、定員合計39名の自立援助ホームがあります。子どもの居場所を運営している法人から、居場所利用が終了した子ども達への支援として、自立援助ホームの開設を検討しているという話も聞かれています。運営会議の中では、在宅支援として、ショートステイを受け入れる自立援助ホームにしたいという話も出ています。開設以来、四半世紀を経過し、子ども自身や子どもをめぐる環境、法・制度が変化する中で、これからの「星の家」のあり方について、皆様のご意見をお聞かせください。

星の家まつり便り

～2022年10月30日 ろまんちっく村にて

第23回星の家まつりと星の家25周年の集いを開催しました～

2022年10月30日(日)、星の家まつりが行われました。前回の星の家まつりの開催は2019年10月。2020年、2021年も会場を予約し、企画は立ててきましたが、新型コロナウイルスの蔓延、そして度重なる緊急事態宣言により開催を見送らざるを得ない状況で、3年ぶりの開催となりました。ろまんちっく村での開催は4回目。コロナ対策で模擬店なし、バザーのみの開催でした。

そして今年は星の家の25周年。

天候にも恵まれ、沢山の方にご来場いただきました。そして、まつり当日のボランティアさんの数は約140名、純利益は約90万円でした。青少年の自立を支える会の活動費として大切に使用させていただきます。

〈実行委員会〉

星の家まつりを開催するにあたり、4回の実行委員会を開催しました。石原さんが実行委員長を引き受けて下さいました。今回の会議はコロナ対策で星の家もしくはZOOMを使ってのオンライン上、どちらでも参加できる形をとり、密にならないよう心掛けての実施となりました。

〈値付け〉

3年前の星の家まつりから今年の星の家まつりまで、年間を通して皆さんからいただいたバザー品に値段をつける作業を、9月17日(土)、24日(土)、10月1日(土)、8日(土)、12日(土)、15日(土)、22日(土)、星の家および月の家にて行いました。

その他、有志の方が別日に南大通りの倉庫で値付け作業をする姿もありました。

明治安田生命宇都宮支社宇都宮南営業所の方々にもご協力いただきました。

〈まつり前日〉

まつり前日の29日(土)は、12時半に星の家に集合し、倉庫として借りていた星の家の目の前の平屋の建物と、南大通りの倉庫から物品をトラックに積んで運び出しました。前回同様小島さん、木村さん、林谷さん、今年はさらに栃木県天台宗仏教青年会の方がトラックを、そして(株)ウナンさんが4トントラックを出して下さり、往復することなく、一度で荷物を会場まで運び込むことができました。

会場のろまんちっく村では、13時にボランティアさんたちが集合。バザー品が届くまでに、ローズハット内の椅子や机を移動させたり、各売り場にシートを敷いたり、荷物が運びやすい様に各部門の名前を掲示したりと大忙し。

物品が届いた後は、星の家集合のボランティアさんたちも加わり、あっという間に部門ごとに段ボールが会場内に運ばれました。その後は、段ボールから品物を出して、陳列に取り掛かっている部門もありました。

(株)粕田商店さんが、段ボール用コンテナを



前日から設置。当日のバザー終了後には、回収に来てくれました。

星の家まつり当日

〈集合、準備〉

まつり当日は本部、会場係さん、各部門責任者が 8 時、その他ボランティアさんが 8 時半集合で準備作業に入りました。

イベントワーク(株)さんからテント、長テーブル、椅子貸出のご協力をいただきました。会場誘導係の木村さんの音頭で、テントの組み立てからテーブル、椅子の配置までとてもスムーズに会場準備を終えることができました。

〈星の家 25 周年の集い〉

10 時になるとボランティアさんたちがローズハット内に集合し、星の家まつり開会式と星の家 25 周年の集いを行いました。

福田事務局長から、星の家の 25 年の歩みをふり返ってのお話があり、星理事長、美帆さんから集まって下さった皆さん、支えて下さった皆さんへの感謝の言葉がありました。

また、星の家まつり中、これまでの星の家の歩みを振り返った映像の上映が行われ、はなの家の石川さんが編集した映像を、足を止めて見る人の姿が見受けられました。

祝 青少年の自立を支える会 25 周年



〈販売〉

バザー開始の 10 時 30 分には、ローズハット前に列を作って待っていたお客さんが会場内に入り、販売スタートとなりました。

ローズハット内ではバザーとオークションを行い、例年模擬店で使っていた噴水前広場スペースにもバザー品を並べ、お客さんが密になりにくい様に工夫しました。



星の家まつりを目当てに来て下さった方、道の駅に来てみたら「何かやってみたい」と立ち寄って下さった方とさまざまでした。

開店後の会場は沢山のお客さんがいらっしゃいましたが、それぞれのコーナーともボランティアさんが売り場を広く使い、工夫して販売していました。ローズハット内では食器、日用品、衣類、かばん、くつ、手作り雑貨、食品、本 CD、おもちゃ、特売品を販売。噴水前広場の鉢植え、おもちゃ、くつ、かばん、食器の各ブースもスムーズなテント設営のおかげで、余裕を持って準備することができました。

クロークコーナーは大好評でした。お買い上げいただいた荷物を預けて、さらにお買い物される方、閉店時間まで長く利用される方もいらしたようです。

13 時から、星の家まつり恒例の林谷さん司会によるオークション！お酒や骨とう品、掘り出し物を目当てに、沢山の方が参加してくださいました。

〈片付け〉

14 時にはすべての部門で閉店となり、片付け作業に入りました。ドンドンダウン鶴田店さんに衣類、くつ、かばんの残品全てを量り売りで引き取っていただきました。また、ハイエースいっぱい衣類の値付け、パイプハンガーの貸付のご協力もいただきました。

ボランティアさんがてきぱき作業して下さったおかげで、残品の箱詰め、トラックへの積み込み等の作業もスムーズで、15 時の閉会式前には片付けはほぼ終了。会場の椅子や机も元の位置に戻しました。

15 時からは閉会式。各コーナーの売り上げ速報があったほか、実行委員長の石原さん、事務局長の福田先生、理事長の星さんからあいさつがありました。最後まで残って下さったボランティアさんが集合して、記念写真を撮った後は、最後の片付け。残品などの荷物を積み込んだトラックは、星の家前の平屋の倉庫へ。荷降ろし作業もスムーズに終わり、まだ明るいうちに終わることができました。

皆様のご協力のおかげで、3 年ぶりの星の家まつりと 25 周年の集いを無事に終わることができました。ありがとうございました。このコロナ禍で人とお会いする機会が減ってしまった 3 年間でしたが、改めて星の家まつりは普

段から「青少年の自立を支える会」の活動を支えて下さっている皆様とお会いできる機会であり、パワーやエネルギーをもらえる場所なんだと感じました。沢山の方々に支えられて「青少年の自立を支える会」の活動は成り立っているのだと思います。

今年の星の家まつりは星の家、月の家、はなの家の子どもたちが参加しました。星の家の OB、OG も顔を出しに来ました。子どもたち、元子どもたち、ボランティアさん、スタッフ、元スタッフ…いろいろな人たちが入り混じって談笑している姿が印象的な星の家まつりでもありました。

普段の生活で大人も子どもも行き詰りそうになる時もありますが、星の家まつりで皆様とお会いできたことを糧にまた、それぞれの持ち場に帰って頑張れば良いなあとと思っています。



2022 年 11 月 26 日 (土)

「第 13 回子ども虐待をなくそう！県民のつどい」が行われました

〈第1部〉 基調講演

テーマ：「虐待死をなくすために私たちができること
～死亡事例検証から見えてきたこと」

講師：大竹智氏（立正大学教授）

＜第2部＞ シンポジウム

テーマ：「虐待死をなくす

～虐待の予防、重症化させないための取り組み」

パネラー：

篠原良一氏（栃木県中央児童相談所長）

手塚良子氏（日光市子ども家庭支援課家庭児童相談室）

高橋弘美氏（NPO法人子どもの育ちを支える会さくらネット小山理事長）

助言者：大竹智氏

コーディネーター：福田雅章氏（主催者代表）

2022年11月26日（土）、とちぎ青少年センター多目的ホールにて、子ども虐待防止ネットワークとちぎ主催の県民のつどいが開催され、約100名の参加がありました。

今回のテーマは「虐待死をなくすためにわたしたちができること」。虐待死により亡くなった子ども達を追悼し、黙とうの後、基調講演に移りました。

第一部は、東京都児童福祉審議会児童虐待死亡事例等検証部会会長として、2018年の東京都目黒区で発生した結愛ちゃん事件の検証をはじめ、これまでに多くの虐待死検証事例に関わっておられる大竹智氏のお話を伺いました。

＜内容＞

6～7人に1人の子どもが貧困の中にいて、15人に1人がヤングケアラー。虐待を受けて育った人の2割に虐待の連鎖が見られるが、信頼できる大人に出会え、トラウマを克服できた8割は連鎖を断ち切っている。

目黒区と、野田市で子どもの虐待死が起きた。どちらの事件も、母親が父親の支配下にあり、母親は外部に助けを求めることができなかった。転居後に事件は起きた。目黒区の事件は児相が家庭訪問したが、会わせてもらえず。そして、どちらの事件も、子ども達からのSOSがあった。

つらい体験があるからと言って自分と同じ目に合わせたいと思う親は1人もいない。親自身の心のケアがなされないまま、信頼できる人に巡り合えず、社会的にも孤立した時に、一

番弱いところに矛先は向かっていってしまう。そんな状況に居る親子を社会的サービスにつなげなければならない。そういう意味で、通告は援助のスタート。私たちができるのは、顔と顔がつながること、知り合うこと、孤立させないこと。見守っていくこと。SOSを出せる地域社会、SOSを受け止められる地域社会を作っていきたい。



続いての第2部ではまず、パネラーの篠原良一氏、手塚良子氏、高橋弘美氏がそれぞれ栃木県、日光市、NPOでの取り組みを紹介されました。

＜篠原氏＞

虐待死が多いのは0歳児で、妊婦検診未受診の母親が多い。つまり、望まぬ妊娠からの追い詰められた母親の姿がそこにはあり、行政の支援につながっていないケースのリスクが高い。通告により行政が入ることで、児童虐待の早期発見や重症化の回避につながるため、虐待かもと思ったら遠慮なく「189」

に電話してほしい。



〈手塚氏〉

日光市で取り組んでいる民官協働の取り組みの紹介。市とNPOが一緒になっての相談・支援体制ができており、その中身は養育者の緊急SOSへの対応、子どもの居場所やショートステイの利用から、ゴミ出し、引越しの手伝いまで多岐にわたったものになっている。

〈高橋氏〉

行政での仕事経験から、「相談を受けても支援する場所がない」と感じ、NPOを立ち上げ、子どもの居場所「おひさま」を始めた。ネグレクト等の環境にある子ども達が居場所に来ることは、子ども達にとっては食事、入浴、洗濯等の支援や学習支援になると同時に、保護者にとっても養育負担の軽減や、子育てや悩み事の相談、個別の支援につながる。現在、栃木県内には11か所の居場所が開設されている。課題は、子どもや保護者から相談を受けても、生活課題の改善につなげるのが難しいこと。

それぞれの方の話を踏まえて、質疑応答の時間もあり、虐待とつけつけについての質問もありました。「私は叩かれて立派になった」と言われる親御さんもいらっしゃいますが、「それはダメだよ」という事を繰り返し説明してることが大切と手塚さんもおっしゃっていたのが印象的でした。

「子ども達の声を私たち大人が聞いていくこと、関わる大人が子どもたちの代弁者となるしかない」…私たち大人は何かができるのか、このつどいに参加した皆が自分自身を振り返る機会となるような、そんな県民のつどいだったと思います。

～アンケートより～ 回答数 36名

「大変よかった」23名、「よかった」9名
「普通」0名、「あまりよくない」0名、
「よくない」0名、無回答 4名

〈ご意見〉

- 自分は専門家ではないので、背景知識がなく、わかりづらい部分があった。
- 4～5年前から参加させていただいております。虐待防止のために何かしたいとの思いを継続させることができ、おかげ様で地元で子ども食堂を今年立ち上げることができました。大変ありがとうございました。子ども食堂が「居場所」になっていない。居場所へのステップアップしたい運営者向けのアドバイスをお聞きしたいです。
- わかりやすかったです。家庭だけではなく、施設（幼・保）での職員から子どもへの虐待が見えていないので、どうしたらよいか。通報の仕方、研修のあり方を広めてほしい。
- 子どもの居場所で働いているので大変勉強になりました。
- 虐待に関心が無い方にも、気づきを与え、他人ごとから自分ごとにしてもらう活動が必要だと思います。一般の方も気軽に参加できるイベントづくりをすると良いかと思いません。
- 民間の取り組みがすごいと思った。
- 栃木県内の子どもを支援する各施設や団体が、実際に何をしているかがよく理解出来た。
- 丁寧な支援で、決して上から目線ではなく、子どもも保護者も安心して頼れる居場所を

作ってくれているのだということがわかり、感動した。

- 行政とNPO（民間）の連携がうまくいっている例だったと思う。できる事、できない事、得意な事などお互いにあるのだから、協力し合う事が虐待を防ぐ事につながるのだと思う。親にも子にも、暖かみのある寄り添いに感動しました。
- 初めて参加しました。大竹先生の話、とても勉強になりました。虐待児への実質的な対応の仕方のお話を大竹先生から聞いてみたいと思いました。日光市の官民連携はどこの自治体でも必須だなと思いましたし、それをモデルにして栃木県全体に広がってほしいと願います。支援者が被虐待児へどんなケアをしていけば良いか、皆で勉強していけたら良いなと思います。
- 大竹先生のお話、とてもよく分かりました。
- 検証から見えてきたことについて、多くの方に知ってもらいたいと思いました。報道では、保護者の事が大きく出ていますが、やはり社会の問題だと思います。今後も微力ながら携わっていきたいと思います。ありがとうございました。虐待予防につながった事例、介入法、具体的な支援について知りたいです。
- 夫人相談員兼家庭相談員をしております。家庭内DV相談、面前DVとして心理的虐待を受けている児童や母親の相談対応をしています。この中で、常々、人権教育が必要であると思っています。特定妊婦として関わること、夫、パートナーの存在、考え、本人の意思の確認をしながら対応をしていくようです。行政でできること、できないこと、NPO法人ができること、できないことをネットワークをつくり、協働していくことが必要であると思います。虐待死をなくすために、積極的な介入が必要であること、介入することで、少しでも親の意識に変化があればいいと思います。また、支援の場があるということ、相談できる場があることを知らせることが

良いと思う。

- 児童福祉の仕事に9月から携わるようになり、なんとなく疑問だったことや知りたかった基本的なことが、今日のつどいで明らかになりました。
- 日光市での24時間の電話対応や、ケースによるきめ細やかな対応を知ることができました。虐待が起きる背景には、DVも深く関わっています。民間ができることを、行政につなげる大切さを学びました。
- それぞれの活動を理解することができた。一人ひとりの虐待の認識等を向上させるために、このような機会が継続的にあることが大切と思います。
- 子どもに関わる仕事をしています。子どもに信頼してもらえる大人になりたいです。私が今できることは、子どもに寄り添い、子どもをよく観ることだと思いました。ありがとうございました。
- 参加してみて、こんな子ども達がこの世にいるとは思っていませんでした。子ども100当番の家でありながら、なさけないかぎりです。
- 児相・市・民間の活動が知れてよかった。大竹先生の話はとてもよかったので、もっと聞きたかった。
- 行政ができる事の限界。行政しかできないことがある。
- NPOの力にあらためておどろく。
- 大竹先生のお話は大変勉強になりました。虐待対応をしていくなかで、リスクを認識すること、行動の理由を考える事が大切だと思いました。
- 大竹先生のご講演は大変勉強になりました。死亡事例で何が起きているかを知ること、一つ一つのケースの着眼点を確認することができました。一見、軽いケースに見えても、もしかしたらの視点をもって確認していきたいと思いました。とても良い講演会をありがとうございました。

- パネルディスカッションを長くしてほしかった。
- 保護者が「～してくれるようになった」という表現は気になります。保護者との間に上下を感じます。「～するようになった」「～できるようになった」ではありませんか。支援者と保護者は対等ですよ。上から目線は相談しにくいです。
- 子どもの幸せのため協働していきたい。
- 大竹先生の説明はポイントが良く伝えられており、大変わかりやすかった。
- 子どもを支援する行政や居場所がさらに力をつけて、地域と共にネットワークしながら支援できるとよいと思う。
- 虐待のニュースをきくたびに心を痛めてきました。ニュースの裏側の背景や専門職の

方々の現状を知ることができ、貴重な機会となりました。

- 児相・市町・民間での連携について学ぶことができました。子どもが嫌だな、悲しいなと思ったら虐待というのはとても重要な基準だと感じました。ありがとうございました。



《事務局から》

☆今年はやります！3年ぶりのコンサート

第22回 青少年の自立を支える会コンサート

日時 令和5年2月26日(日) 15時開場 15時30分開演

場所 宇都宮市文化会館大ホール

出演者 倉沢大樹 (El.・Pf.) マーリン (ヴォーカル) 島田絵里 (Fl.)

チケット販売中 (自由席 1000円) 連絡先 星の家 028-666-6023

No.0001... 第22回 青少年の自立を支える会コンサート ...No.0001...

“～社会的養護を必要としている子ども達を支援するためのチャリティーコンサート～” 22th Concert

倉沢大樹 (El.・Pf.) Marlyn (Vo.) 島田絵里 (Fl.)

2023年 2月26日(日) 開演3:30PM (開場 3:00PM) 1,000円 (全席自由席)

宇都宮市文化会館 大ホール 宇都宮市明保野町7-66

主催:認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会
主催者住所:宇都宮市清住 1-3-48 電話:028-666-6023 「星の家」

寄

付・会費納入者

令和4年7月1日から令和4年12月
末まで 敬称略・順位不同

●正会費

青木孝之 岩田友子 宇賀神慶子 内山成史
江連京子 加藤雅子 金子哲也 倉田克己
株式会社ガス検 小坂博子 小林幸正
近藤峰明 齋藤一明 齊藤幸子 塚本明子
白上桂子 鈴木友之 高橋文吉 田崎祥江
中村明美 埴 智江 桧山康子 福田智恵
益子 亨 増山民江 増山 均 山口恵子
山中節子 よつ葉生活協同組合 渡辺やす
渡辺ヨシ子

●賛助会費

秋澤育子 糸井 克 井上雅生 入倉明世
岩室紳也 植田利江 薄井益美 大浦智子
太田芳一 大野育代 加藤咲季 釜井加代子
上岡正行 君島トキ子 小森峯子 西藤明子
佐島由美子 佐藤久美子 菅又さゆき
佐藤文代 芝野行雄 鈴木正美 高野孝男
高橋真知子 高橋由紀子 瀧澤由紀子
高橋由美 武田ミサヲ 田村 隆 田村陽子
塚田哲夫 槌江徳子 東城 守 中山年博
中山信彦 西岡 隆 野口栄子 人見智子
福田久美子 福田静江 藤平浩史 古頭岳夫
松浦万里子 山崎れい子 湯沢千恵子
松本 栄 山越浩子 吉澤卓男 林谷和憲
林谷政子

●賛助団体

芙蓉地質株式会社 峰町キリスト教会
養徳園

●寄付

青木孝之 秋澤宏幸 阿久津昇 石川浩子
足利市更生保護女性会 石塚 毅 石原恵子
石本真紀 糸井 克 岩切チカ 岩田三恵子
医療法人ひだまりの森クリニック理事長 齊藤義弘
宇賀神慶子 内山成史 宇都宮体操クラブ
浦部延子 大島早智子 大島 登 大塚浩子
大塚洋子 大野育代 岡田みち子 岡村勝美

小川秀子 小野崎千鶴子 加藤美恵子
柿沼真里 梶田みどり 加藤カヨ 加藤雅子
株式会社ガス検 株式会社鈴木工務店
株式会社ニッカネ 鎌田篤子 河原美恵
北村光弘 君島健一 倉田克己 倉田信子
倉前満里子 黒須美波子 小坂明宏
小平光志 児玉恵里 後藤 隆 小林幸正
小堀栄美子 近藤峰明 齋藤 薫 齋藤一明
齊藤幸子 齊藤好江 塚本明子 坂本政子
佐藤和子 佐藤貴美子 佐藤由紀子
佐藤浩志 澤田加奈子 渋井洋子 下里敬明
菅又さゆき 鈴木友之 鈴木光代 高野孝男
高橋真知子 高橋由紀子 館野文子
田中厚子 田村孝夫 多門 孝 槌江徳子
ちょちょこめかし 手塚和子 手塚敬子
寺内晴美 東京電力労働組合栃木地区本部
NPO 法人エンディングサポートセンター
栃木県天台宗仏教青年会 栃木少年友の会
那珂川町更生保護女性会 長嶋須美子
長島整形外科 中村明美 中村和子
中村光子 中村和夫 中村右子 永森裕子
野口栄子 日原典子 桧山康子 福田和子
福田静江 福田初美 芙蓉地質株式会社
古頭岳夫 星 紀彦 本田広美 三好洋子
峰町キリスト教会光と風の家 ミノリ理容所
村山直樹 村山雅子 山口恵子 山崎民雅
山本道枝 有限会社宇都宮能開 若色美佐子
渡辺厚子 渡辺ヨシ子 NPO 法人とちぎボ
ランティアネットワーク 匿名(4名)

なお、このほかに沢山の方から募金、食品や
日用品などをいただいております。ご芳名は
省略させていただきますが感謝しお礼申し上げ
ます。

ありがとうございました！

ご不明な点がございましたら事務局までお
問い合わせください。会費の納入及び寄付に
ついては預金口座の引き落としも可能ですの
で事務局にご相談ください。

【編集後記】

コロナが一向に「収束」しません。前号で「終息を願う」と表現したら、「収束」ではないですかと、指摘されました。私は「いやいや、あくまでも終息を願わなくては・・・」と言い張

りました。

ここまでくるととりあえず「収束を願う」です。ね。(福田)

【会費納入及びご寄付の郵便振替先について】

加入者名：青少年の自立を支える会 口座番号：00140-3-366972

*通信欄に会員種別・寄付金及びその金額をご記入ください。また、ご入会の方は“入会”をご記入ください。

会員種別と金額は、

正会員：5,000円、賛助A：5,000円/一口、賛助B：1,000円/一口、賛助団体20,000円/一口です。

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会

所在地/320-0037 栃木県宇都宮市清住 1-3-48

発行日/ 2023年1月

電話/ 028-666-6023 FAX/ 028-666-6024

発行責任者/ 星 俊彦

Eメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp

編集責任者/ 福田雅章

HP/ <http://www.jiritsu.org>

